

九十周年は踏切板である

―反省と前進の時―

住 谷 悦 治

人間の社会・歴史からみれば九十年は一瞬の短かさを覚えしめる。しかし、人生七十古来稀なり、という言葉を使いたいあわせるとき、九十年はまことに長い意義ある「時」の経過であろう。明治八年（一八七五）に新島襄先生の熱涙したたる祈禱のもとに、わずか八名の生徒とデビス先生、やがてつづいてラーネッド先生をもって開始されたわれらの同志社を回顧すれば、全同志社学生生徒二万三千名、教職員一千二百名、校友・同窓の男女七万を数える現在の同志社はまことにその盛況は祝賀されねばならない。わたくしは創立者新島先生・山本覚馬先生をはじめ、同志社設立に協力された内外の多くの人びと、校友・同窓のかぎりなき艱の道によく耐えた精進を感謝にみちた喜びをもって回顧する。

同志社設立の根本精神はキリスト教主義に立つ教学であり、新島先生の言葉借りれば、良心の全身に充滿する大丈夫として、これを手腕に運用しうる国家・社会に有用な

る人材を送り出すことである。そのためにこそ、われら多くの先輩は同志社に学び、同志社を愛し、同志社とともに成長し、社会の各方面にその責任を果してきた。九十年の歴史の跡を辿るならば、まさに、祝賀に値する。同時にわたくしは同志社の長い歴史における起伏・変転・受難の数々をけつして忘れるものでなく、真摯な批判的精神をもってその採るべきは採り、捨つべきは捨て、謙虚なところをもつて、今こそ同志社の将来を再思すべき絶好の機会であると信じている。同志社はこれでよいのか？ 今こそ冷静にして峻厳なる反省と前進への、満身の力をこめた踏切板 Take off board にその一步を踏みしめた瞬間である。われわれ当局者はもとより、教職員・学生・生徒・校友・同窓のすべては、すべて、この九十年の祝賀の祭典をもって、創立者の遺志を体してわが同志社の建設と前進と飛躍への踏切板とすべきである。

同志社はその創立当時の少数の人びと、新島先生、デビ

ス先生、ラーネット先生および八名の生徒によってのみ発展せしめられたのではない。明治九年に熊本洋学校のジュースのもとにリベラル・アーツの課程を修め、厳しい訓練とかなりの進歩を身につけたいわゆる「熊本バンド」の生徒たち三十五名、宮川経輝、古荘三郎、岡田松生、林治定、不破唯次郎、由布武三郎、大島徳四郎、蔵原惟郭、金森通倫、吉田万熊、辻豊吉、亀山昇、海老名喜三郎、浦木

武雄、大屋武雄、両角政之、野田武雄、下村孝太郎、北野要一郎、加藤勇次郎、原井淳太、紫藤章、松尾敬吾、金古富吉、古閑義明、上原方立、徳富猪一郎、森田久万人、伊勢時雄、浮田和民、坂井禎甫、市原盛宏、川上虎雄、鈴木万、今村慎始の三十五名、さらに熊本洋学校からひとたび東京開成校（後の東京帝国大学）に入り、同志社へ来た稀れにみる秀才山崎為徳、熊本バンドの指導格の先輩学生小崎弘道など、宣教師・教師から熊本バンドと呼ばれたすぐれた生徒たちと、在来の生徒たちとの切磋琢磨によって素晴らしい同志社の学風なるものの基礎が築かれたのであった。新島先生の勇氣と寛容、信仰と謙虚、デビス先生の場合、ラーネット先生の知性、まさに同志社のマークにも浸透しているこれら三先生のすぐれた信仰・教育・訓練があったとしても、熊本バンドの同志社への輪血と相互の切磋琢磨がなかったならば、同志社の発展はおそらく、さらに遅々たるものであったであろう。新島先生は、よくも、これら在来の生徒と誇りをもった熊本バンドの生徒との上

に立つて寛容な、適当な指導と訓育を果された。デビス、ラーネット両先生はともに清教徒的な、深い教養のあるキリスト教徒であった。これらの創立当時の人びとの不和・反撥も融和・共学もいっさいが相互の切磋琢磨の道程であった。初期にここで生れた学風は同志社の歴史の中に脈々として流れつづき、やがて明治精神史上、社会史上に素晴らしい貢献した。

もちろん、同志社への厳しい批判はあった。明治二十三年一月、新島先生の亡くなられたその秋にいち早く中西牛郎は、自らの『経世博義』という雑誌第一巻第一号で、同志社と新島先生とに厳しい批判をした長論文を発表し、同志社人が新島先生を偶像視して、その蔭にかくれて自ら誇るべきでないことを警告した。全同志社人の誰れがこの厳しい批判に反論を加えたか？ 黙々たる実践をもってその批判に答えたと言うか？ 同志社に批判される何ものかが無かったと公言しうるであろうか。われわれは今もなおこの批判に対して傾聴し、謙虚であらねばならぬ。さらにまた明治三十九年には同志社に愛想をつかし、同時に同志社からも嫌われ通した高畠素之（マルクス『資本論』の最初の邦訳者）は、出身中学校である群馬県立前橋中学校の機関誌に、同志社教育を痛烈に批判した。同志社が新島先生を偶像視して、「絶え間なく潮流する時代の思想に遠ざかりたる点は到底早稲田などに比して恥しき限りなん」とまで批判した。（『坂東太郎』誌四十号）。わたくしらこれら

昔の同志社批判にもいくたの反論も可能であろう。しかし、同志社は、いま、その盛大なる大同同志社となり、九十周年の祭典を迎えるにあたって、断じてひとよがりの自己陶酔に終ってはならない。無批判の中に手ばなしで立ってゐてはならない。肩を低くし、新島先生を偶像視するので

九十年の激流

どんなに冷静に、わが同志社の足跡を追想して見ても、過去九十年の半分は、波瀾万丈の激流であった。新島先生の春秋に富む、四十七才の短かいご一生も、平々坦々たるものではなく、寧ろ稀れに見る劇的な生涯であった。

しかも、学園の創立をばんだものは、基督教を教学の基本としたところにあった。さらにアメリカ伝道会社との衝突は、純然たる独立の教育機関であると考えた日本側と一の伝道機関に善用しようとする宣教師側の異質な見解にあった。また政府との間には徴兵猶予の特典を得るために難関となつた、通則第三条の「基督教を以て徳育の基本と

なく、われわれの親しい近いすぐれた指導者として、生々とした先生として、先生の謙虚さと良心とに想いをいたし、正しい批判には傾聴し、自戒・反省し、将来への力強いテイクオフボードとして、この九十周年の式典を意義づけねばならぬと思う。

(総 長)

秦 孝 治 郎

す」との根本問題が、理事者の容易ならぬ受難となり、小崎・横井両社長がつめ腹を切つて辞任したく、らいである。今ここに『九十年』と題する、現京都市長高山義三氏の実父、中村栄助翁の一書を繕いて引用することとした。翁は、新島先生の死に直面して「中村さん、同志社を頼みますよ、今後の同志社のため、私に代つて十字架を負うて下さい」と仰言つたように思うと口述している。

また、前記の横井社長の後、人物と手腕には稀れに見る人材の下村・西原・片岡社長の三代に亘つたが、矢張り衰微の運命を辿り、原田社長に至つて中興の大学創設に成功

したが、再び社内の紛擾を来たして、逆に掛冠された。この場合にも翁は、「社長事務取扱」となって、埋め草の役、ジョイントの役、バッター交代の継ぎ目に立った。

大正八年四月には、海老名総長の就任に依って、再び校運は挽回され、愁眉を開く間もあらばこそ、大正天皇が御駐蹕中に、有終館の出火事件で責任をとらなければならぬ不幸に遭遇したのみでなく、海老名総長の送別会が理事者を攻撃する学生大会にまで発展し、再び逆流が屋台骨に入り込んだのである。

『九十年』には左の口述が続いている。

「よしッ、何んな嵐がやって来ても、先生の遺業を護らなければならぬ。生命を賭してでも、学校の神聖を護してなるものか、これで、若し、私が殞れるやうなことがあるれば、私は本望だ。先生に対して少しでも申訳が立つ」とまで、私は考へたものである。だから、私は騒擾の間、ずっとモーニングを着けて登校したのであるが、そのゾボンには、実は先生から頂いた遺品であったのだ。『万一老の身に如何なることが起らふとも、これさへ着けておれば……』と、全く、私は死の覚悟を以て、あの同志社本部の理事室に頑張った。そして、人なき時には祈り通したのである」(原文のまま)

幾度か、事務取扱を重ねた中村翁は、この総長不在の九カ月の間、その重任につき、漸く大工原総長を迎えた。その後、湯浅・牧野・大塚総長など校運の大成へ向かうよき

時代に及んだが、翁は九十歳の感想として次の三十一文字を残している。

御意なればいつ召されてもこしへの

わがふるさとへにしき着すとも

(原文のまま)

わが故郷へ錦着すとも、その謙虚な心根には、素朴な一基督信者が犠牲献身の純真な奉仕の真骨頂を告白したものである。翁が、わが学園に残された額には、立派な筆蹟で「二里行主義」と書かれた。「一里の効役を強いなば、それとともに二里行け」の聖言を実践躬行した信仰と人生観が裏書きされている。

わが国の基督教主義学園の歴史を見ると、同志社ほど基督教に対し、学制と教育方針との融合を内外より圧迫された受難は尠ない、寧ろ経営者と校友との人の和を欠いたものが、多く見受けられる。換言すれば、基督教主義を操守するためにどれだけ抵抗があり、これを乗り越切るための難関が累積したかが波瀾万丈の内容に外ならない。

しかるに、幸か不幸か、第二次大戦以降の国内状況は、寧ろわが学園による影響を齎らした。宣教や伝道の上に大きなプラスさえ導いたのである。教会の門には、多くの求道者が続き、礼拝出席者の純計は頃を上昇した。学園の宗活動は、次第に良き実を結ぶに至ったが、これが五年とたち、十年を過ぎる頃には、入信に対する熱意が薄らぎ、徒らに理論に流れ、学園内の宗教的雰囲気は稀薄になりつ

つあることも看過出来ない。

全同志社の宗教教育に一層の協力体制を固め、各学校の宗教教育が、名実ともに前進し、浸透するためのあらゆる方策が、総長を中心とし、大学の宗教部長と相携えて実践すべきことが望まれる。

外国の由緒ある大学が、広大なキャンパスと古風重厚なチャペルを持つているのは羨ましい限りである。落着いた静かなもつと広い校地が焦眉の急を要するのではないか。

当面に重圧しつつある課題は、如何にゆとりのある土地で静かに勉学し宗教活動が出来るや否やの飛躍である。東

創立九十周年に当り

九十年、と申しますと、三世代であります。世代 (generation) という言葉を英語の辞書などで検してみますと、約三十年、ということになっております。自分の子供が三十才になると一世代を経過したことになるわけでありますから、大体、三十才のときに生れた子供が、三十才になる

京のW大学は埼玉県の本庄に広大な土地を物色し、M学院は郊外に静かな校地を購って移転を開始している。関西において戦後異常な発展を遂げ総合女子大学になったM学院は、最近に第三学舎にまで発展し、九千名の学生、生徒が三地域に分散して、それぞれの特色を満喫している。

幸い過去十余年間、全く人の和と人材の集結と施設の伸展を来したわが学園が、新鮮で合理的、理想的の奔流に棹すべき絶好のチャンスではあるまいか。元より潔よく中村翁に続く十字架を負いながら。

(理事長)

上野直蔵

まで、ということです。そうしますと、同志社英学校創立の一八七五年(明治八年)と申しますと、いま三十才の壮年者のひいおじいさんが三十才のときのことになります。そのころ、わが国では、どんな事件が起っているか、といえますと、その四年前に薩藩置県が実施され、二年後に西

南役が起っております。また、内乱があつた時代でありますから、日本の国は、暗中模索の時代であります。仮名垣魯文などがしきりに戯作を書いていた時代です。中村敬宇、福沢諭吉や西周、成島柳北らが、思想界、文壇で活躍しています。こういう顔ぶれと、ドーデー、ゾラ、ドストエフスキー、イプセン、トルストイ、フローベル、ヘンリー・ジェイムズなどという名前を並べてみたいと思います。実は、この東西の顔ぶれは、同じ世代に属するのです。仮名垣魯文や成島柳北などと申しますと、ひどく文体も、内容も今から読みますと、古めかしいものです。第一、名前をきいただけでも大そうかびくさいのであります。ところが、ドーデーやドストエフスキーやヘンリー・ジェイムズなどは、きわめて、いまでも、新鮮であります。文体も、内容も、すなおに生々しくうけとめることができます。日本では、十年ひと昔、といつて、一世代を十年で算えますから、それだけ古く感じるのでしょうか。昔は、日本人は非常に早く隠居して家督を件に譲りましたから、世代の勘定が短いのかも知れません。しかし、本当は、日本が、西欧諸国がゆつくりと獲得した文明を、ご維新以来あわてて吸収したからなのです。それだけめまぐるしく世相が変化してゆく。だから、わずかの年月でも隔世の感がするのです。日本は、国をあげて、先進国に追いついて、堅艦、巨砲をつくり、早く国としての立身出世をとげなければならなかつた。そして個人個人もそのための学問と栄達をこころがけ

た。明治政府の焦りがそのまま今でも尾をひいているのであります。一國、という大きな円錐の頂点の方だけを、とにかく恰好だけはつけなければならなかつた。いくら先覚者が、「自由は死せず」だとか、「民本主義」とか唱えても、泡沫のように消えてしまふ。精神的風土からみれば民力の基礎はきわめて弱いものであつたのです。私は、いまでもそうではないかと思ひます。なんでも急遽改変、とくるから、じつくりと *perspective* をもつことができないのではないのでしょうか。

こうして、国をあげて富国強兵、官辺の立身出世に狂奔していた時代に、関西の一隅における同志社の創立は、まことに小さい、貧しい「一粒の麦」でありました。しかし、創立者、新島襄が、世に問うた一八八八年(明治二十一年)の『同志社大学設立の旨意』を読みますと、この一粒の麦は、多くの実をむすぶべく約束されていたことが、よく分ります。大学教育が、立身出世する少数のエリート育成を主意とするものではないことを、あまりにも、はっきりと、すでに、あの時代に宣言しているからであります。それは、真の国力は、キリスト教的良心をふまえた教養、果斷の士を広く、厚い人民層とすることによって、はじめて可能であることを論じているのです。とくに痛快なのは、日本の官学偏重を「無頓着」「無気力」だときめつけ、「依頼心の最も甚だしい」ものとして、「浩嘆止む能はざる」ものだ、というところがあります。この思想は新しいもので

す。たまたま現代のわが国の世情にあうから新しい、というのではありません。それは、一国の文化とか文明とかは、いたずらな、そして無理な背のびをすることによって立ち立てられるものではない、知的な、広く根強い民力によってのみ可能だ、という、その趣旨が、明治の昔においても、昭和の現代においても新しい、ということです。私は、いつも、そういう意味においてこの『旨意』を新しいと考えております。で、同志社も新しいと考えております。創立者新島襄の精神が生きているかぎり新しいと考えております。西欧流に勘定すれば、そもそも三世代はまだまだ鮮新なのであります。日本流に、「明治は遠くなりけり」と

校友・同窓九万人の喜び

村田 竹治郎

母校創立九十周年記念式典に際会して校友七万六千、女子部同窓一万八千、合計九万四千人を代表して、ここに祝辞を申述べる光栄を感謝し、且つ嬉しく存ずる次第であります。

実は私は八十周年にも八十五周年の時にも祝辞を述べさせて頂いたのでありますが、今日まだ生き長らえてこの光栄を得ますことは、まことに感慨にたえない次第であります。

詠嘆するからこそ古い、と感じるのであります。明治の新島襄が今も新しいように、同志社は新しいのであります。

創立八十周年を迎えようが、九十周年を迎えようが、私どものような立場と地位にあるものは、いつでも、申し上げたり、ご披露したりする感想は特に変りません。あえて奇をてらわないかぎり、意義とか覚悟の開陳は、まず儀式的で立派なことばかり並べることになります。私もその響みにならったわけではありませんが、九十才という若者同志社を、ここで再確認したつもりであります。

(大学長)

す。

さて今日、ここでは同志社創立九十周年と唱えられておりますが、実際は今少し以前ではないかと思うのであります。それは新島先生がまだアメリカにご滞在中、アメリカンボード総会において熱烈なる言辭と祈りと涙をもって母国日本に基教的学校設立の希望を訴えられた時に起源するのではないのでしょうか。その時の感動された多数の聴衆は

一挙にして多額の浄財を献金したのであります。中にも一老婆があつて、私は貧しいゆえ帰りの汽車賃だけとて二ドルなにかしを捧げて、はるばる歩いて帰られたそうで、かような数多の篤志と祈りをもってわが同志社が創められたのであります。

また日本においては明治八年、相国寺畔の豆腐屋の二階で聖書の講義が始められ、八人の生徒で同志社英学校開校の時も、新島先生が熱烈な祈禱を捧げられて、デビス先生がその日の日記に、一生涯忘れられない感激としていられるとのさきほど総長先生のお話にあつた通りであります。かくのごとく熱烈な祈禱をもって創められた学校は他に例があるでしょうか、私も同志社をもって母校とする誇りと喜びはまことに深いのであります。

かくて九十年、この間幾多の英才を世に送り出しましたが、中にも日本黎明期の発展に寄与された功績は偉大なものがあつたと思ふのであります。すなわち宗教界においては海老名弾正、宮川経輝、小崎弘道、堀貞一、山室軍平等学者教育者としては元良勇次郎、中島力造、大西祝、森田久万人、浮田和民、安部磯雄、村井知至等、社会事業家としては留岡幸助他多数、財界実業界においても市原盛宏、小野英太郎、深井英五、下村孝太郎等々であります。

現代においては九万人の卒業生が世の下積となり、地の塩となり、世の小きくとも光となつて孜々営々と働いておられますことは、実に一大壯観と申すべきであります。再び

言うこの学園を母校とし心の古里とするわれわれは、無限の誇りと光榮と感謝と喜びを感じるのであります。

翻つて他の反面を考えて見ますと、この光榮の九十年の歴史の蔭には、幾度か存立の危機とまた苦難さえあつたのであります。すなわち創立当時の他宗教の圧迫、中期における財政の貧困、近くは大東亜戦時中「基督教を以て徳育の基本とする」同志社綱領の廃棄への強圧、これは牧野総長の時代であり、私も当時理事の一人として心配したのでありましたが、徳富先生のお蔭でようやく事なきを得たのであります。すなわち、今日の成果は決して単純なものではなく、十四代にわたる歴代の総長をはじめとして多数の役員、教職員、父兄会、政界財界のご援助によるものであり、特にアメリカンボードの偉大なご援助すなわち初期のデビス先生、ラーネット先生をはじめとし、今日まで無数の有名な先生を一切無料でご派遣ください、その他数々の物心両面の寄与を載いたのに因るもので、この点、特に深甚なる感謝と敬意を表するものであります。

しかし私どもは現在の同志社をもって足れりとするものではありません。現状は人間の肉体のごとく醜い半面を持つております。どうぞ今日を再出発の基点として、真実に新島先生の期待される学園とするため、われわれ卒業生も努力をいたしますが、願わくば学園ご当局、諸先生一人一人の絶えざる懸命のご尽力をお願い申し、更によりよき同志社を期待して私の祝辞といたします。

(校友会会長)

言葉の花束

— 海外の大学から



オーティス・ケーリ

△アーモスト大学代表▽

われわれは今、一堂に会し九十年に亘る成長と発展の歴史を見つめようとするものであります。ある豆腐屋の二階でわずか七人の学生と共にはじめられた同志社は、現在四つのキャンパスに二万数千の学生、数百の建築物、千名にのぼる教職員を抱えるというまれにみる発展を遂げたのであります。私が申すまでもなく美しく述べられてきた高尚な目標に向って、同志社は今後ますます進んでゆくことを信じたのであります。慎重な態度、注意深い計画性、しっかりした指導力、それぞれが将来大いに必要とされるところであります。同志社こそそれをかね備えるものとわれわれは確信いたしたのであります。

この同志社の使命をさらに押し進めるにあたり、理屈にあわない一連のできごとの数々をこのあたりで思いだしてみるのもよいことかと思えます。歴史を学ぶ者にとっては、偶然の一致を重視しすぎることは危険なことであり、偶然が、それにしても考えて然るべきことはいかに偶然というものが存在しうるかということです。ベルリン号のサヴォリー船長がもしあのような人でなかったならば、ワイルド・ローヴァ号のテイラー船長がもしあのような人でなかったならば、ワイルド・ローヴァ号持主のアルフユース・ハーディ氏（この演壇になんの幸いかその曾孫にあたるゲルストン・ハーディ氏がちょうどお見えになっております）がもしあのような人でなかったならば、そのアルフユース・ハーディ氏がニューイングランドの伝統にもとづく学問に対するクリスチャン・レイマンとしての深い関心をもっていないならば、なお彼がアンドーヴァならびにアーモストに理事者として積極的に参加していなかったな

らば、そしてさらにアメリカン・ボード評議会の議長でもなかつたならば——以上のようなまつたく偶然な事がらごもし存在していなかつたとしたら、おそろくわれわれは一人も本日ここにこうして集まる必要はなかつたと思いません。過去を顧み、将来を望見するこのひとときの必要はまつたくなかつたといえます。

ニューイングランドの伝統に生きる小規模な教育機関であるアーモスト大学を代表し、こうしてここに私が列席できますことを光榮に思い、九十年の間、この大規模でかつまた成長してゆく同志社の「母なる教育機関」としてまればあるが不破の關係をアーモスト大学がもつことはわれわれの誇りであります。

Greeting, Salutations and Godspeed!

* * *

ロイ・ピアソン

△アンドーバー・ニュートン神学校長▽

同志社創立九十周年祝典が十一月二十九日に舉行されるという通知に接し、アンドーヴァ・ニュートン神学校一同、喜びに耐えません。われわれ全教職員ならびに学生からの暖かな祝辞をお送りいたします。

当校はあきらかにこの重要な記念式典に大きな関心を示しております。と申しますのも、当校の学校案内書には、

同志社創立者ジョセフ・ハーデイ・ニイシマが一八七〇年から一八七四年にいたる間われわれとともに学んだ、という事実が記されているからであります。彼の名前はいまだに当校における名譽ある名前であり、ニイシマの波乱に富んだ物語が存在しなかつたとしたら、われわれの学校の歴史もありえなかつたことでしょう。彼の創立した大学や、彼の祖国日本のみならず、各教会や広く世界にいたるまで意義深い貢献をなした人物の教育の一端をになつたということを私たちは大きな誇りとするものであります。

十一月二十九日の式典に可能なら列席いたしたいと存じますが、ここにそれに代えてわれわれ心からのお祝いを送らせていただきます。

兄弟愛をもって、貴学に敬意を表します。

* * *

ロバート・E・ゴーチン

△プリンストン大学長▽

日米間における教育面での最初の交換が、代表的な日本の大学の創立者を通して百年前に始められたのですが、それにあたりプリンストン大学より祝辞をお送りできますことは、私の喜びとするところであります。

プリンストンは、数十年にわたる貴学との幾多の連けいや、日本でのキリスト教教育に果たした貴学の役割をこの上

なく誇りに思っております。貴学と当大学の関係は、ハーデイ家と当大学との関係に基づくものであり、貴学創立当時から長年にわたるものであります。一八五九年、日本へ渡った宣教師J・C・ヘプバーン博士は、日本の土を踏んだ最初のプリンストン卒業生であり、下って現在は、貴学の位置する京都の人々とも当大学は何らかの友好関係にあるのであります。

日本に対するわれわれの関心が高まるにつれ、またわれわれの日本の文化に負うところ大になるとともに、「西洋」がもたらした宗教・文化・科学面での影響は、近い将来、日本の文化に一步道を譲ることになるだろうとわれわれは信じております。なぜならば、多くの点でアメリカの大学研究機関は、日本の学生や教授陣の貢献に得るところ大なるものがあるからであります。

*

*

キングマン・ブルースターII

△エール大学長▽

エール大学学長ならびに教職員一同は、十一月二十九日の同志社創立九十周年に際し、同志社総長、理事ならびに教職員諸氏に心から御挨拶申しあげることが光栄に存じません。

ジョン・W・ホール教授を通して、貴学とエール大学と

の交友はあるのですが、大学というコミュニティに対してなした貴学の奉仕に対し、当大学は心からお祝い申し上げますと同時に、今後の榮譽と御発展をお祈りいたします。

*

*

カール・フェリンガー

△ウィーン大学長▽

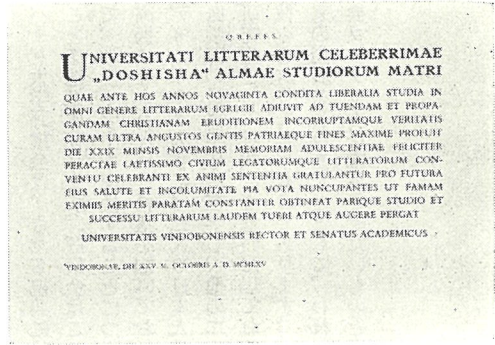
令名高き大学、高貴なる学問の母なる

「同志社」へ。

貴学は創立以来今年にいたるまで九十年間、学問の凡ゆる分野における高等教育を顕著に推進し、キリスト教の擁護と伝道、不朽の真理の闡明に尽され、優れて尊貴なる祖国と民族のために最高の奉仕をなさいました。十一月二十九日を卜し、喜ばしき九十周年と偉業の達成を記念し、市民



Feu



代表および学界代表を招き祝賀の式典を催されるに当たり、貴学の健全にして安泰なる将来を衷心より祝し、すでに達成された名声と高き業績とを常に変らざる努力をもつて保持し、引続いて学問的賞讃を維持するのみならず、さらにそれを増し加えるために前進されんことを、敬虔なる祈りをもって所望するものであります。

紀元一九六五年十月二十五日ウィーンにて

ウィーン大学総長並びに長老教授会

* * *

ギュンター・バルンカム

ハハイデルベルク・ルプレヒト・カール大学長V

尊敬する総長殿

同志社大学創立九十周年の祝典に際し、ハイデルベルク大学の名において、心からなるお喜びとお祝いのご挨拶を申しあげます。貴大学の歴史からわかりますことは、神に対し、世界に対し、祖国に対し奉仕するため人々を教育するという、いかに高い目的が貴大学にかせられているか、また、大学が小さな発端から今日までいかに力強く成長し



Günther Bornkamm

てきたか、ということであります。

それで、私たちは貴方と貴大学の全学生に私たちの最上の挨拶を表明いたします。

私自身は一九六三年秋の貴大学訪問を感謝の念をもって

思い出します。私の講演を聞くために集った学生諸君の生々とした率直さと熱心さは、貴大学の教授諸氏との実り多い応待と同じく、私には忘れられない事柄であります。私たちの大学の関係が両国の繁栄のため、今後より一層実り多いものとなりますように。

*

*

チャールズ・H・スチュアート

△エディンバーク大学会長▽

エディンバーク大学評議会は、きたる祝典に代表者を派遣できないことを遺憾に存じます。評議会はここ数年内に日英両国間で、教授や学生を交換することにつき教育と友愛の精神を高揚させようという希望を抱いております。

現在、エディンバーク大学には三人の日本人学生がいます。一人は医学部の最終学年に在学し、他の二人は社会科学の分野で研究生として学問に専念いたしておりますが、われわれは彼らを誇りに思うものであります。

貴学の将来の発展を祈りますとともに、われわれは今後ますます交換プログラムを推進させたいものと考えております。

*

*

フィリス・G・ロス

△ブリティッシュ・コロンビア大学長▽



Phyllis G. Ross

ブリティッシュ・コロンビア大学総長として創立九十周年を迎えた貴学に衷心より御挨拶申しあげます。

一八七五年以来の貴学のまれにみる発展は、貴学の創立者が描いていたヴィジョンへのはなむけであり、また国の繁栄に寄与する大学という学問研究機関について日本の国民が広く認識していることの証拠でもあります。

われわれも一年間を有意義に過ごすべく考えておりますが、この年に貴学に祝辞を述べさせていただくことは、当大学のもっとも喜びとするところであります。

貴学がキリスト教を奉ずる教育機関としてかなうよう、広い学問の世界に対し貢献をつづけて下さるとともに、信

仰においても、またその成果においても成長発展しつづけられますよう心から望むものであります。

*

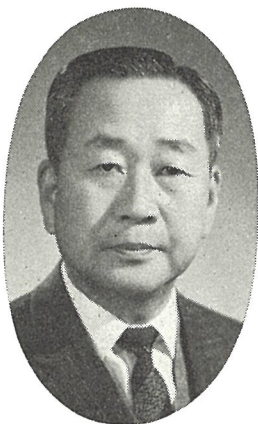
*

チヨン・ウー・リー

△韓国大学長▽

同志社創立九十周年に際し、私の心からなる喜びと賞讃のことばを送らせていただけますことを光榮に存じます。学問の分野においても、また幼稚園から大学にいたる広範な教育機関における子弟への誠実にして質朴な人格教育や、神への奉仕精神を広めてゆくいちじるしい活動において、すばらしい成果を残されている同志社に対し、深甚なる敬意を表します。

韓国大学の全教職員ならびに学生に代り、貴学が時の流



Hong-hao Lu

れとともにその創造的な努力を今後とも続けられ、将来もより一層の繁栄をなさることを心から希望いたします。

*

*

△マニラ大学長▽

日本の最も古いキリスト教系高等教育機関である貴学の創立九十周年に際し、マニラ大学が全世界の大学とともに、この画期的な時期に参与できますことはわれわれの喜びとするところであります。

過去九十年間には、日本のみならず世界において、多くの歴史的に重要なことがありました。全人類が安住できる世界をと願望している一方、政治、社会、経済、文化上の変化が幾多もあったのであります。しかしながら、今日の貴学が時流の先端に立ち、導いているのは、国際間の相互理解の分野においてであり、また創立者の強い理念が今日も流れているのは、そういう変化にもかかわらず約一世紀もの間その理念が同志社人により守られつづけてきたからであります。その間、広く世界の国民と国家との間には、兄弟愛への叫びも存在していました。教育上の機関は、たしかに、国際間の理解を促進させるに貴重な貢献をなすものであります。が、われわれは、貴学のなしてきたい

ちじるしい成功に敬意を表するものであります。

知識を広め、共に永劫への平和の鍵を探索することは、いまや大学等の高等教育研究機関にかせられた使命であり、仕事であります。このことは、ただ学問への真の精神と熱意ならびに自由を求める意志によってのみ達成されるものであり、イデオロギーや宗教的な、また人種的偏見でなされるものではありません。

同志社の皆さんが将来共にいちじるしい成果をおさめられんことを願ってやみません。

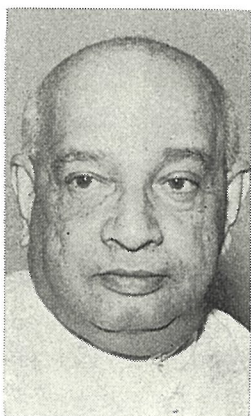
*

*

P・V・チェリアン

△ボンベイ大学長▽

ボンベイ大学総長として、同志社創立九十周年のこの時



A stylized, handwritten signature in dark ink, appearing to read 'P. V. Cheliaman'.

にあたりご挨拶を送ることできますことは私の光栄であります。

同志社というこのユニークな教育の場は、神と人類愛とに捧げられる人々を送り出すという方針を固く守りつづけてきました。貴学が来る年ごとにその方針をますます堅固に、そして、「世界は一つ」の実現に努力されんことを祈ってやみません。

*

*

B・マリク

△カルカッタ大学長▽

貴学が日本における最古のキリスト教系高等教育機関であり、また「同志社」ということばが、神と世界と祖国のために捧げる人々を訓育することを目的としたものであることを知り、感動を覚えるものであります。

現在の若き人々が神や世界に奉仕することのために学ぼうとしないかぎり、またヒューマニティはただ一つのものであることを認識しないかぎり、われわれの世界は沈うつなものとなるであります。

ところで、今われわれの世界を注視するとき、破壊力の大なる兵器が散在し、第三次大戦が起こりうるかもしれない状態であります。われわれが知るかぎり、われわれの文



Billabhi

化はそれでせん滅されるのであります。

しかるが故に、われわれの責務である教育は、たんに知識の切り売りではなく、人格を形成し発展せしめることであり、真実ならびに他の高德を探究し、それとともに「ヒューマニティは一つ」を旗印に神と世界とのため奉仕すべく男女を送りだすこととあります。そうしてこそ「平和」がはじめて訪れるのであり、戦争がすでに過去の悪夢となるのであると私は信じております。

貴学がこの目的のために邁進されてることを知り、喜ばしく存じます。貴学の今後の発展に幸あれかしと祈りつつご挨拶といたします。

*

*

I・H・ケレシ

ハカラチ大学副学長

創立九十周年にあたり貴学につつしんで祝辞を申し上げます。私はいまだ同志社大学を訪れる機会がありませんが、貴学に関する文書からわかりますことは、同志社がその九十年もの間に学問研究への貴重な基盤を残してきたというすばらしい活動の数々であります。また日本がこの数十年の間に学問の世界において成しとげたいちじるしい成果は、日本の教育研究機関がその分野においてよく奉仕してきたことを示すものでありましょう。貴学もその内の一つであり、日本に近代の知識をもたらしたことについては誇りうるものであります。パキスタンにおりますわれわれは、日本のなしとげた学問の成果に最高の敬意をもっています。また貴学が日本の知的な発展において重要な役割りを演じた事実について、われわれは同志社に敬意を表するものであります。

全同志社がその教育上のプログラムにおいて成功されますよう。また、同志社が日本を繁栄に導く教育に奉仕し続けられますよう衷心より望みます。

*

*

チュラロンコン大学

チュラロンコン大学学長、学長代理ならびに全学部長は、十一月二十九日の同志社創立九十周年記念の通知に接し、まことに喜ばしく存じます。

われわれは同志社総長、理事ならびに教職員諸氏に感謝するとともに、この機会を利用して貴学が高等教育の分野において成功、発展しつづけられることを期待いたします。

* * *



グレイソン・カーク
△コロンビア大学長▽

このたびの創立九十周年を迎えられる好期にあたり、貴学教職員ならびに学生諸君に謹んで御祝詞申しあげます。

高等教育を身につけた幾多の若き学究の徒を世に送り出した貴学が、この約一世紀の間になし得た成果にはいぢるしいものがあり、世界のあらゆる人々に大なる喜び

を与えているものであります。

貴学の図書館をはじめ、もろもろの研究所、歴史的に価値ある建物や新建築物、また京都に海外の学者を招く方針というものは、あきらかに貴学が将来も発展しつづけられることを示すものであります。

われわれ一同、貴学の努力ならびに御成功を心から願ってやみません。

* * *



ハースト・R・アンダーソン
△アメリカ大学長▽

同志社創立九十周年記念に対し、アメリカ大学より同志社理事会、教職員ならびに本部へつつしんでお祝い申し上げます。

貴学が日本のキリスト教界において指導的役割をになつて
いるという点はあまねく知られ、また貴学のなしとげて
きた地位というものは羨望のでもありません。貴学から生
れ出るその影響というものは日本のみならず関係各国にも
およぶもので、その価値ははかりしれないものでありまし
よう。

*

*

ハワード・ショーマー

△シカゴ神学校長▽

人類の歴史のなかで、欧州、米州ならびにアジア・アフ
リカ諸国に相ついでキリスト教系大学が設立されてきたこ
とは、人類の文化に対するきわめて優美で慈意に富む貢献
であります。人間一人一人への寛容、真理に対する謙讓な
らびに学生の人格的存在に対する尊敬——これら三つは、
その根本においてキリスト教系大学を特徴づける本質では
ないでしょうか。

貴学の幾多の学生がシカゴ神学校で学びましたし、また
当校の著名な卒業生が貴学総長をも含む高い責任ある地位
で貴学に奉仕してまいつたのであります。すべての人々に
対し解放的であり学問の分野においてはその卓越した面を
示す貴学こそ、キリスト教を奉じる大学のきわめていちじ



Howard Schomer

るい例であろうと信じております。

国民をはじめ日本の文化発展に寄与してこられた貴学の
九十年もの奉仕に対し、謹しんでお祝い申しあげるもので
あります。

*

*

ジョージ・W・ビードル

△シカゴ大学長▽

創立九十周年の祝賀に際し、同志社教職員、理事並びに
友人の皆さんにシカゴ大学からお祝いのことばをお送り
し、今後将来も成長と発展をされますようお祈りします。
シカゴ大学からのこの祝辞とともに、私個人からも創立記
念の成功をお祈りします。



ハ
ー
ラ
ン
・
ハ
ッ
チ
ャ
ー
ハ
ミ
シ
ガ
ン
大
学
長
▽

ミシガン大学の理事、評議員、教職員ならびに学生より同志社創立九十周年記念に際し、御挨拶と祝辞をお送りいたします。

ミシガン大学は隣人である貴学へ高い関心をほらっておりますし、多大な影響をおよぼしてきた貴学の学問に対する創造ならびにその維持に対し、賞讃の辞を惜しまないのであります。ミシガン大学は貴学とともにこのよき記念に際し、誇りを分かちあえるでしょう。



J. E. Wooleys

J
・
E
・
ウ
ォ
ー
レ
ス
・
ス
タ
ー
リ
ン
グ
ハ
ス
タ
ン
フ
ォ
ー
ド
大
学
長
▽

スタンフォード大学を代表して創立九十周年を迎えた貴学に御挨拶申し上げます。



一八七五年創立以来の貴学の成果に敬意を表明すると同時に、将来への発展を祈ってやみません。貴学は世界に広がる高等教育機関とともに真理を探究し、それを分かち合う共同体の中にあるものと信じます。

*

*

クラーク・カー

△カリフォルニア大学長▽

貴学の教育方針に敬意を表明しますと同時に、学生、教職員諸氏、本部こそって九十年の間、その方針の実践化に成功されてきましたことにお祝い申しあげます。

カリフォルニア大学は、貴学の薫陶をうけた先生方や大学院生を受け入れることにより感化されてきました。いわゆる同志社精神は彼らを通してわれわれの知るところであ



Clark Ken

ります。教室や実験室での研究生生活が生涯にわたる学問研究への糸口である、とわれわれは信じていますが、こういうわれわれの信念にとって、貴学が教育を道徳的な人生体系として強調されていますことはきわめて貴重なものであります。国際的な貴学の視野は、学問の世界において国々の相互理解をさらに深めようとされることであるが故に喜ばしいものであります。

カリフォルニア大学を代表して、私はここに貴学の今後の発展と成功をお祈りいたします。

*

*

スチュアート・ルロイ・アンダーソン

△パシフィック神学校長▽

パシフィック神学校を代表し、創立九十周年を迎えた貴



Arthur G. Anderson

学に祝詞をお送りできますことは私の喜びとするところであります。

九十年もの長きにわたる献身的、思索的、学究的であり、かつ現実には即したキリスト教界での貴学の指導的立場は長く記憶されるべきことでありましょう。しかるに、高等教育の一端をになうパシフィック神学校一同は、貴学の理事、本部、教職員ならびに全学生による今日の活動に誇りと満足をもつものであります。

このたびの創立記念祝典が日本や世界へのキリスト教奉仕にとり、新しい力と新鮮な方向づけをもつ確固たる足がためとなりますようお祈りしつつ、ご挨拶に代えさせていただきます。

*

*



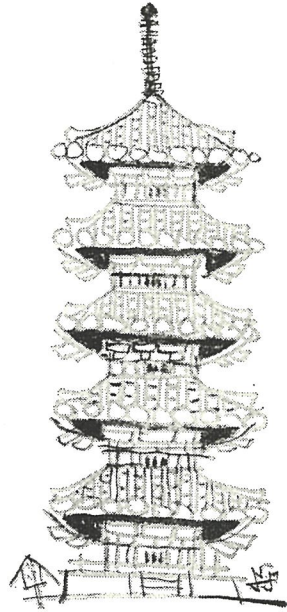
Thomas H. Hamilton

トーマス・H・ハミルトン
ハワイ大学長

同志社創立九十周年に際し、ハワイ大学およびイースト・ウェスト・センターを代表して祝詞をお送りできますことは喜びにたえません。

貴学は長期にわたる名誉ある歴史をもち、日本における文化的かつ知的な生活に多大な貢献をなしてきたことは価値あることであり今後もかく続くことを祈ります。

次の九十年間が今までと同様に建設的なものでありますよう期待してやみません。



私と京都

奥田 東

私は小学校三年生の時に京都に来て、それから大学を卒業するまで居った。卒業後十カ年ほど東京に勤務していたが、昭和十四年秋に京都に戻り、それからはずっと住みつくことになった。したがって、私は純粹の京都人ではないが、今までの人生の大部分を過ぎきた土地であって、京都が故郷であり好きである。これからさき

も、この世を去るまで京都に住みたいと思っている。
小学校の頃は出町に住んでいて、京極校に通ったのであるが、そ

の頃は学校の前の狭い道を、小さな電車がコトコトと走っており、通学の途中、袴に下駄ばきという姿で電車と競争したこともあった。雪は近年よりも多かつたようである。雪が積ると体操の時間に御所に行って雪だるまを作ったり、雪合戦をしたもので、なつかしい思い出の一つである。

京都の町は発展しないように言われているが、永い目でみると随分変っている。中学時代は今の洛北高校の前身である京一中が吉田にあった頃で、今出川通りの電車はなく、出町の橋を渡ると畑が続いており、吹雪の朝など学校に行くのがつらかつた。当時は四年終了で高校を受験する制度があり、同級生も沢山三高に入った。そこで、五年生になってからは私は真剣に勉強した。その頃は相国寺の北に住んでいたが、疲れて散歩に出るとすぐ畑で、鞍馬口通には道の両側に多少家がならんでいたが、その裏は畑で、疏水（今では暗渠になって街路樹の林のあるところ）まで行くとホテルが飛んでいて、散策にはよい場所であつた。上賀茂まで住宅が続いてしまった今とは大変なちがいである。

三高生の散歩道は、熊野神社―平安神宮―知恩院―円山公園―清水、あるいは石段下―京極であつた。平安神宮から知恩院に上る坂道や円山公園から清水にぬける途中には、今でも昔のおもかげを残しているところもあるが、それも少しづつ崩れて行くのは、何となくさみしい気持ちがある。東山通の電車はなく、熊野神社の東側は本当に狭い道で、三人が肩を組んで通れば一パイになつた。自動車のない時代であるから、それでもよかつたが、高唱しながら歩くのであるから付近の人には迷惑なことであつたらう。しかし、その頃

の三高生は人気があった。一高戦へ行く応援団が太鼓をたたき、旗を振って歌いながら京都駅まで練り歩く時など、沿道の家では氷の勝割（かちわり）を箆に入れて迎えてくれたものである。

京都は千年の都であり、また日本で最初に水力発電所を建設し、市街電車を走らせた町である。京都の良さは、古いものと新しいものが混在していて、新しい生活を楽しみながら古い文化を味わうことのできる場所にあるのではなからうか。これからも、古い良さを保存しながら、新しいものを創造してほしいと思う。

（京都大学学長）

京都が与えたもの

堀 経 夫

私は、大正三年から同十一年まで、すなわち十八歳から二十六歳までの八年間を、三高の生徒、京大の学部及び大学院の学生として過ごした。従って、京都は私の心の古里でありまた私の一生の方向を決めてくれた思い出の多い街である。本稿では主として私の心に及ぼした京都或いは京都生活の影響の若干を振り返ってみよう。

第一に、私に学究生活を決心せしめ、また専攻分野を決めてくれたのは、京都である。今、このことについて具体的な事例をあげている余白はないが、私はこの八年間にずいぶん沢山の著名な内外の

学者の公開講演をきく機会をもった。これは学部としての京都で暮らしたおかげである。むろん、三高ですぐれた教授から高度の一般教養を授けられたり、第一及び第二外国語の厳しい訓練をうけたこと、また京大で有名教授——殊に経済学の——の講義や演習に参加したことは、私のその後の生活や専攻に決定的な方向づけを与えた主因である。しかし、なんでもきいてやろう、といった青年時代の広い欲求に応えてくれたのは、静かな、東京などのように過大でない都市、京都であった。

第二に、京都生活は、浮動しやすい青年期の私の心に安定をもたらした。これは、必ずしも京都なるがゆえにというわけではないが、たまたまはじめ牧師さんの家に止宿し、教会に出入し、よき師とよき友をえて、キリスト教に入信したことは、私にとって重大事たるを失わない。私は決して模範的なクリスチャンではないが、しかし今日まで精神的に比較的安定をえている（と自分では思っているのだが）のは、京都生活の第一歩がよかつたからである、と信じている。

第三に、私は元来ぶしゅみな男であるが、それでも京都に住んだおかげで、友人たちと共に行動して、名所旧跡をたずねたり、名物を知ったり、或いは古い歴史——奈良をもふくめての——に興味をもつようになった。京都に住んでいて、市内や郊外を散策し、また時には宇治や奈良へ足をのぼすことほど、楽しいものはなからう。

第四に、私の親しい友人——学問上の友人、音楽鑑賞を共にした友人、スポーツ（殊にテニス）での友人等々——の多くは、京都時代にえたものである。すでに故人になつた益友も少なくないが。

このほか、例えば大学院の学生時代に立命館大学で、また終戦後同志社大学で、講義をしたことなど、思い出はいくらでもあるが、紙面の許す範囲で、以上、京都または京都での学生生活が私に与えてくれた心の糧、すなわち、学問、宗教、趣味、友情の四者を、あげて、私と京都の関係、或いは私が京都に負っているところが、非常に大であることを、述べた。具体的な姓名、地名などをあげなかったから、興味のうすい文になったことを、おわびしなければならぬ。

(関西学院大学学長)

古都の魅力

松下 正寿

私は青森県八戸市の出身ということになっており、事実その通りなのであるが、生れたところは京都である。家庭の事情で生後九ヵ月位で八戸につれて行かれ、そこで育った。その意味において私は八戸出身である。その「家庭の事情」なるものも、と、いいものなら、私は大いに京都生れを誇りとしたであろうが、実は甚だまずいので、どちらかと言えば秘密にしておきたいような気が残っている。私は「かわいい赤ちゃん」であった。今でも「かわいい」と自分では思っているが、世間ではそう思ってくれないからあきらめて

いる。近所のおばさんが私をかわいがって世話してくれた。父も母も喜んでいるうちに、そのおばさんが父に接近し、父はその婦人とかけ落ちしてしまった。すてられた母は兄と私をつれて祖父の任地八戸に行き、助産婦を開業して兄と私を育てた。私の生れた京都の家は落ちぶれた公卿さんの家敷であった。ある日蛇が家にはいりこみ私に接近した。おそらく乳のにおいに魅力を感じたものであろう。火のような赤い舌をペロペロ出して私に襲いかかった。気がついた母は大急ぎで私をだいて逃げたので私は難をのがれた。この話は母から聞いただけで私は知らない。しかし私はあの赤い舌を今でも感じている。恐ろしくもあるが魅力もある。あの赤い舌が私と京都との関係を思わせる。もの心がついてから私は幾度となく京都を訪れた。京都は私にとって恐ろしくもあれば魅力のあるところでもある。恐ろしいというのは圧倒的だという意味である。私はキリスト教の環境に育ったから西洋的なものには親しみは感ずるが圧倒されない。ロンドン、パリ、ローマ、その他世界の大都市には何度も行つて見たし、立派だとは思つたが圧倒はされない。京都には私は圧倒される。先年印度へ行つた時いくらか近い印象を受けた。しかし既に老齢の私には若い時のような鋭い感受性がないから感じ方が弱い。京都が私を圧倒するのは東洋文化だと思う。もっと端的に言うると輪廻思想だと思われる。印度教、仏教を貫く思想は万物一体である。私の場合というと、あの私を襲いかかった蛇と私の一体感である。私は犬や猫と話しをした夢を何度も見ることがある。そして時々夢の方が現実の方が虚欺ではないかと思うこともある。蛇とは未だ話しをしたことがない。話しをするのが恐ろしい。

蛇と私とを一体と感ずるのが恐ろしい。京都はその恐ろしいものを私に現わしてくれる。だから私は京都を恐れ、京都にひきつけられ代から私にとって恐ろしくもあり、魅力のあるところであった。論理としてはめちやくちやであるが、そういう感覚は今でも私の心に残っている。私のいうことには一つも客観性がない。客観性があれば差しさわりが出来るが、客観性がないから安心して何でも言えるのである。

(立教大学学長)

京都の美しさ

鶴 飼 信 成

今年の秋も京都を訪れて、下鴨神社や御所の辺りなどを歩き、川に近い古い宿に泊り、京都の美しさを味って来た。アメリカが京都を爆撃しなかったのは、ラ大使をはじめとする多くの文化人の忠告によるのであろうが、その京都の市民たちが、戦争の破壊力に敏感なもの、こういう経験から生れた強い感情が基礎にあるからであらう。

ある時私は、ハーバードの教授を案内して桂離宮を訪れたことがある。名物の切支丹灯籠が彼の関心をひいた。庭園の美しさにも

うたれたのだろう、小堀遠州の墓所を訪ねたいといひ出した。行ってみると、大徳寺の中の塔頭、孤蓬庵は、ひっそりとしていて、玄関に訪問客お断りの札が出ていた。

しかし呼鈴に応じて出て来たのは、意外にも眸の明るい女子学生で、きれいな英語で墓へ案内してくれた。墓石は大き過ぎて、権威主義的なおいがし、われわれのイメージには合わなかったが、何となく、墓というものの宿命を感じさせるものであった。この親切な少女が同志社の学生だと、これはちょっとした小品になるのだが、それはわからない。

(国際基督教大学学長)

私と同志社

片 山 春 一

同志社創立九十周年を迎える好き日に想うことは、あと十年にして同志社百年を迎えるのであるが、それ迄にわが学園から明治調ゆたかな人物が殆んど姿を消すだろうということである。明治末期から大正時代にかけて同志社の学生であった私どもは、明治に対する郷愁もさることながら、当時の同志社に対し郷愁というか愛着を覚える。何しろ学園をわが家として親しみ、教師と学生、学生相互の接触が自然にできる程こじんまりとした学園であった。そこで同志

社精神というものが理窟ぬきに空気のようにな身に滲みこんで、同志社はわが古里、わが母家、生涯たちきりえない母校の感が深いのである。これは明治を背負い同志社創立当初の息吹が学園の隅々までたちこめていた時代に育った同志社人の等しく感じるところであろう。これ等の校友同窓たちの中で生涯かけて学園にとどまり、幾度かの苦難時代に貧窮と戦い、反クリスト教的思想の波瀾を越えて、同志社発展の礎となった人々の功績は大きいと思う。私などはただ便々として三十教年母校の一角にあって一教師としての職責を終えたに過ぎないのであるが、それでも、遠からず明治・大正時代の教職員たちが学園から姿を消すであろうことを想うと、今日の学園の現状にてらして大きな不安を覚えざるを得ないのである。「隅の親石」的存在が学園から消えてゆくような寂しさを覚えるのである。われわれ時代の学生は明治時代を聖代として世界に向って誇るものがあつたので校祖の愛国心に共鳴し、またクリスト精神は国際主義や自由平等の民主精神を生かしうる最も進歩的な世界観とも通じるものがあつたのでこれに共鳴しこれを信奉することに誇を感じていたのである。これが同志社精神となつてわれわれの魂に吹きこまれ、これを素直に受け容れ生かし得たのであるが、顧みてこれは一面明治時代に内在する力のいたすところもあつたことを反省しなければならぬ。

一粒の芥子種が地に落ちて九十年の今日百倍の大樹に繁茂した大同志社の現状を讚美し祝福しながらも、明治「児」たる私どもの憂慮せざるを得ないものは、大樹の根幹を貫く生命の気脈に既に深刻な老化現象の起りつつある事実である。クリスト精神を立学の基盤と

して伸び育ってきた同志社学園からクリスト精神が急速に消滅しつつある現実である。これはひとり同志社学園のみに見られる現象ではなくクリストに繋がる全国学園の著しく悩む一大試練の嵐と言わねばなるまい。われらの苦悩憂慮に対し、現代「児」たる同志社人は言うであろう「昔ながらのクリスト精神、同志社精神は既にその使命を終えたのである」と。また、「凡そ精神なるものは絶えず無限に変化する生命態であつて、時代と共に変貌し新陳代謝することこそ自然の姿ではないか。見よ日本のクリスト教は宣教百年の今日、遂に日本の国土には植えつかず、日本人の膚にそわぬ異教としての自らの姿を暴露しているではないか。寛容と隣人愛を生命とするクリスト者たちが誰よりも非寛容であつて、自らを神のエリートと思ひ上つて他を排し、人間疎外の範を示し來つたのはクリスト者自身ではないか。曾て同志社学園に横溢したピューリタリズムは学園を偽善の園と化し、飲酒喫煙の如き取るに足らぬ外形によつて同志社人の人間を評価さえしたではないか。クリスト教精神の功罪は既に問われている。死者をして屍を葬らしめよ。新らしい同志社精神は現代「児」によつて今作られつつあるのだ。それは庶民精神であり集団意志とも言えよう。若き同志社は泥土の中から、混乱と雑沓の苦悶の闘争の中から生れくるであろう。昔ながらのクリスト精神が粉碎され、その死灰の中から、日本の土に培われ芽ぐんだ、われわれに必要なクリスト精神が生れくるであろう。明治人よ！われらの先輩たちよ！安んじてわが学園から消え給え」と。九十周年を迎えるにあたり、こんな声が切りに私の耳朶を打つのである。

(梅花女子大学学長)